

# 東京オリンピックに向けた 三大学合同授業の実施

-最終発表-

## Group D

東京外国語大学：梶 香菜子、長井 千帆、増田 修平

東京農工大学：井上 双葉、田長丸 幹久、原田 達也、山口 亮

電気通信大学：小泉 直徹、高木 洋輔



# 背景・問題

- 高まるボランティアの需要  
(2020東京大会・訪日ブーム)

## 【現状】

- ・ 行政と大学生との間の情報のギャップ
- ・ 参加の壁
- ・ 学生のボランティアの少なさ

- 三大学連携の始動 (昨年度~)

## 【現状】

- ・ 更なる充実を求める声  
(差し当たり学術メイン)
- ・ 伸びしろを感じる認知度
- ・ 活動の少なさ

➔ オリンピックを三大学協働で盛り上げる  
三大学の関係の深化と発展の一助に



## 背景・問題 (2)

### ● 競技の地元開催

例：調布市：東京（味の素）スタジアムでの競技開催

ex. 7人制ラグビー

近代5種（水泳、馬術、ランニング、射撃）

サッカー（予選）

しかし...

地元開催という実感があまりない

- ・ 地元ではないから
- ・ 二年後と少し後だから
- ・ 距離が少し遠い場所だから

身近なものという認識が必要



# 背景・問題 (3)

## ● オリンピック・パラリンピックボランティア参加希望率

- ・ 全体の10%の人に参加の意思あり
- ・ 若者の希望率が高
- ・ 年齢とともに参加希望率は減少

「行政と大学生との情報のギャップの説明」  
・ 今回の企画のボランティア活動の動機付け

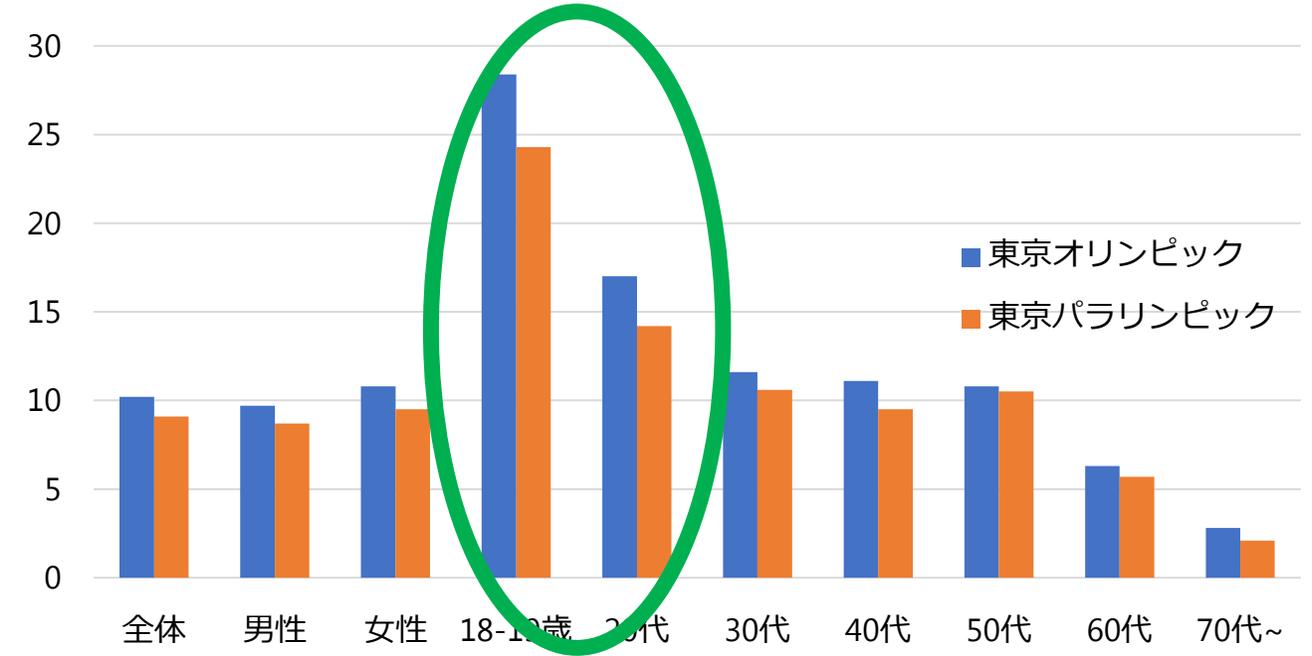


図1 オリンピックパラリンピックボランティア参加希望率  
(笹川スポーツ財団, 2016)

# 背景・問題 (4)

- **スポーツボランティア実施率および希望率**
  - ・ 若い世代(18 – 29歳) の実施率は希望率の**30%程度**
  - ・ 全体の希望率14%に対し、実施率は7%と**50%**にも満たない

「行政と大学生との情報のギャップの説明」

- ・ 今回の企画のボランティア活動の動機付け
- ・ 実際のボランティア活動で若者の参加率と実施率にギャップがある
- ・ オリンピックでも同じ傾向が見られるのではないか

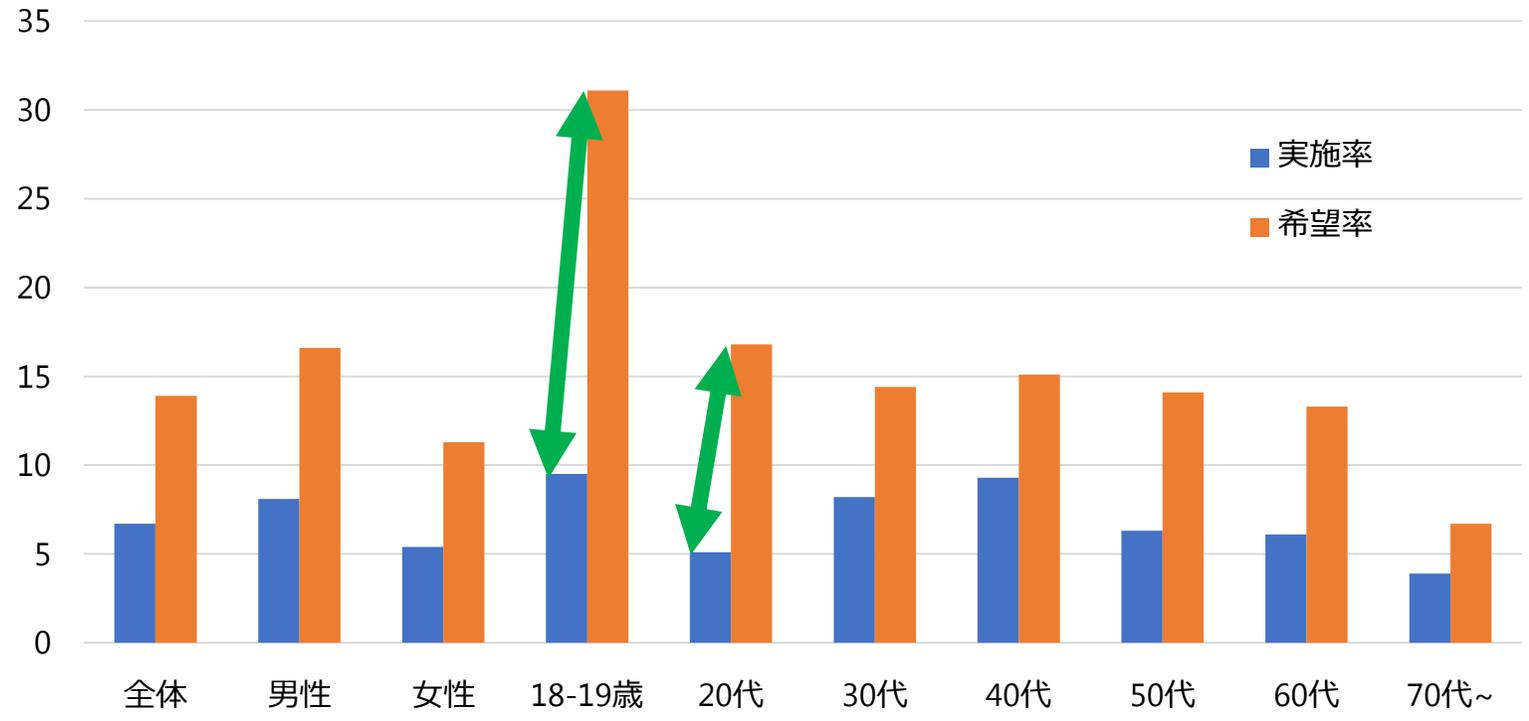


図2 スポーツボランティア実施率および実施希望率 (笹川スポーツ財団, 2016)

# 背景・問題 (5)

- 例：東京マラソンのボランティア
    - ・ 学生は7%
    - ・ 10代と20代を合わせても18.3%と少ない
- ➔ 学生がボランティアに積極的でない

30代:15%, 40代:26%, 50代:23%, ...

- ・ 10代20代を合わせても他の世代より少ない
- ・ 学生はさらに少ないため、ボランティアに積極的ではないと言える
- ・ 東京マラソンはオリンピックに近い東京で行われている大きい大会の例
- ・ (マラソンは身内が出てくる可能性があるから、40代50代が多いような傾向があるかも)

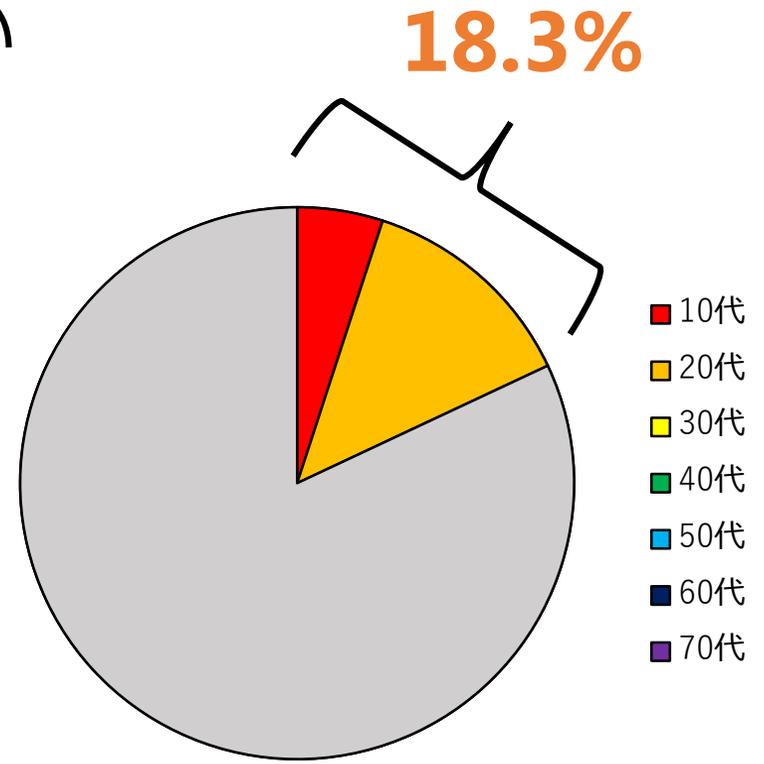


図3 東京マラソンのボランティアの年代別比 (笹川スポーツ財団, 2016)

# 背景・問題 (6)

## ● オリンピックに対する各大学の取組

- ・ 東京外国語大学：ボランティアによる言語対応、通訳養成事業等
- ・ 東京農工大学：広報用のぼり旗の掲出
- ・ 電気通信大学：広報用のぼり旗の掲出

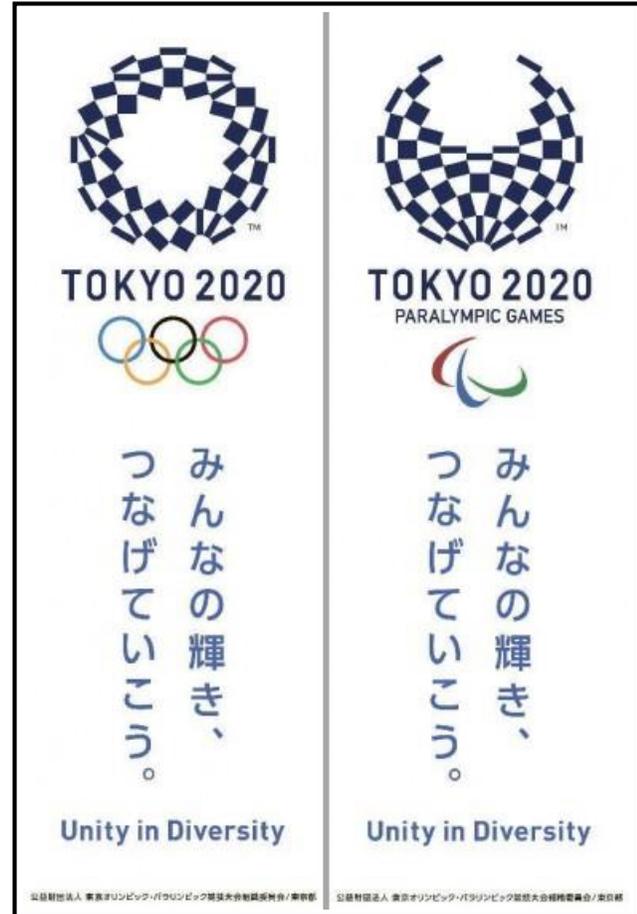
➡ 参加人数がまばら

持続性があまりない

各大学の特色が活かせていない (理系大学)

「大学の取り組みの現状」

- ・ 特に目立った活動はしていない



# 提案する事業の内容

1. SNS・ウェブサイトでの情報発信
2. スポーツ観戦会の企画・運営
3. ボランティアへの参加
4. 三大学の学生が主体となった団体の設置





# 提案理由

## 1. オリンピックへの機運を高める

- 少しでも関心のある人々に、オリンピックの運営あるいは観戦する側として参加してもらい大会をさらに盛り上げる

## 2. ボランティア人材の確保

- 少ない学生ボランティアを大学生で補う

## 3. 三大学の交流

- 今まで交流が少なかったが、立地も近い三大学で交流することで刺激し合える

三大学同士での交流はほぼ0  
この授業のみ？

➡ 対象：主に三大学の学生



# 事業内容 (1)

## ● SNSでの情報発信① - Twitter

- 内容：おもしろポイント、競技あるある、試合状況、この競技のここがすごい！
- 目的：少ない分量で競技の魅力を伝え、興味を持ってもらう
- 方法：週に複数回更新。  
各ツイートのアクティビティから閲覧者の興味を把握して、発信内容を変更していく

「情報発信その1」

理由：拡散力に優れる、文字が少なく見やすい

欠点：フロー型



## Twitter利用例



東京外国語大学  
Tokyo University of Foreign Studies



ツイート 3   フォロー 1   フォロワー 1   リスト 0   モーメント 0

プロフィールを編集

### 三大学学生団体【公式】

@3daigaku\_ofc

農工 × 外語 × 電通 = ∞

Japan

2017年7月に登録

#### ツイート   ツイートと返信

- 固定されたツイート

 **三大学学生団体【公式】** @3daigaku\_ofc · 16分

三大学（農工・外語・電通）連携の大学公認学生団体です。気軽にフォローよろしくです！

🗨️   ↻ 1   ❤️ 1   📌
-  **三大学学生団体【公式】** @3daigaku\_ofc · 11分

2月4日に部活動の交流試合を開催します。

#### おすすめユーザー · 更新 · すべて見る

-  **けものフレンズばびりお...** ×

フォローする   プロモ...
-  **源田 亮平 @gr\_bays25** ×

フォローする
-  **せうご @seugo1** ×



## 事業内容 (2)

### ● SNSでの情報発信② - Facebook

- 内容：選手紹介、歴史、ルール、観戦会の情報、各競技の部員へのインタビュー
- 目的：より詳しい競技情報の提供。  
スポーツの背景を伝えて、より競技を魅力的にする。
- 方法：週に1回更新。  
更新頻度より、投稿内容が充実していることを重視

「情報発信その2」

理由：拡散力がある、写真や動画を交えた詳しい説明可

欠点：フロー型



# 事業内容 (3)

## ● ウェブサイトでの情報発信

- 目的 : 全てのSNS情報のストック、  
文字数制限のあるSNSの情報補填
- 用途 : オリンピックポイントの管理、  
団体内の情報共有用掲示板
- 利用者 : ボランティア、観戦会等に参加した学生

### 「情報発信その3」

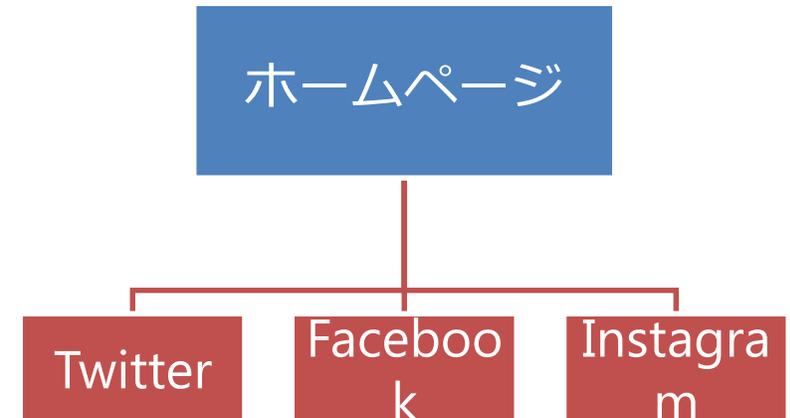
理由：特色を出しやすい、ストック型、団体の信頼性

欠点：実装の敷居が高い

想定：学生主体でサイト、Webアプリ制作

HTML、CSSの学習からLAMP環境による開発まで

※注：掲示板、アカウント制（OPの割り振りなど）などを  
どの程度実装するかにより、予算の量により  
また学生の情報系熟練度により規模が変わる



# 部活動交流の現状

## ● 部活動アンケートの実施

対象：3大学の運動部

回答数：14

## ● 調査結果

- ・ 86%の部活が他大学と盛んに交流
- ・ 交流試合の宣伝は行わないことがほとんど
- ・ 試合や事後の親睦会で親密に
- ・ 86%の部活が第三者主催の交流試合への参加に前向き



「交流会の背景説明」  
後述の観戦会が現実的なのかを補足



# 調査結果

## ● 観客数

- ・ 非常に少ない (ex. 外大ラグビー部 : 5~10人)
- ・ 身内がほとんど (部員の家族、OB OGなど)

## ● 参考となる事例：三大学体育大会 (三繊維)

- ・ 農工大・信州大・京都工芸繊維大で開催 (今年で60周年)
- ・ 多くの体育会系部活 (陸上競技部・卓球部など) で実施

➔ 運営方法次第で充実した大会が長期的に開催可能

- ・ 実際に観客が少ないため、観客を呼び込める観戦会の開催需要ある可能性あり
- ・ 三繊維の例は遠方の大学でも長年続いているため、距離の近い三大学ならなお現実的

# 事業内容 (4)

## ● スポーツ観戦会の企画・運営①

- 他大学と交流試合がしたい
- ルールは分からないがスポーツ観戦をしてみたい
- 友達の部活姿を見てみたい
- 他大学の人と話してみたい



### ➔ 三大学の部活動の交流戦・観戦会の実施

〔 部員によるルール説明、ロールプレイ等を実施  
試合後には交流会も開催 〕

「スポーツ観戦の敷居を下げる事業内容その1」

対象：観戦の意思がある人

(ルールがわからない、一人ではちょっと・・・、)

理由：開催の設定が楽、チケット代等の制約もなし

欠点：盛り上がり欠ける可能性



# 事業内容 (5)

## ● スポーツ観戦会の企画・運営②

- もっと本格的な試合が見たい
- プロのゲームの臨場感を味わってみたい
- ルールの詳しい解説も聞きたい



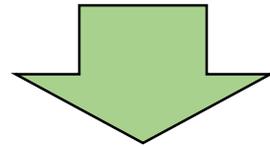
### ➔ プロ・社会人・国際戦の観戦会の実施

〔三大学近くのスタジアムなどでの生の試合観戦〕  
〔該当スポーツの部員によるルール解説も実施〕

「スポーツ観戦の敷居を下げる事業内容その2」

理由：より高度な試合を観戦できる、

欠点：開催の設定、費用



東京大会への機運醸成

# 事業内容 (6)

## ● ボランティアへの参加

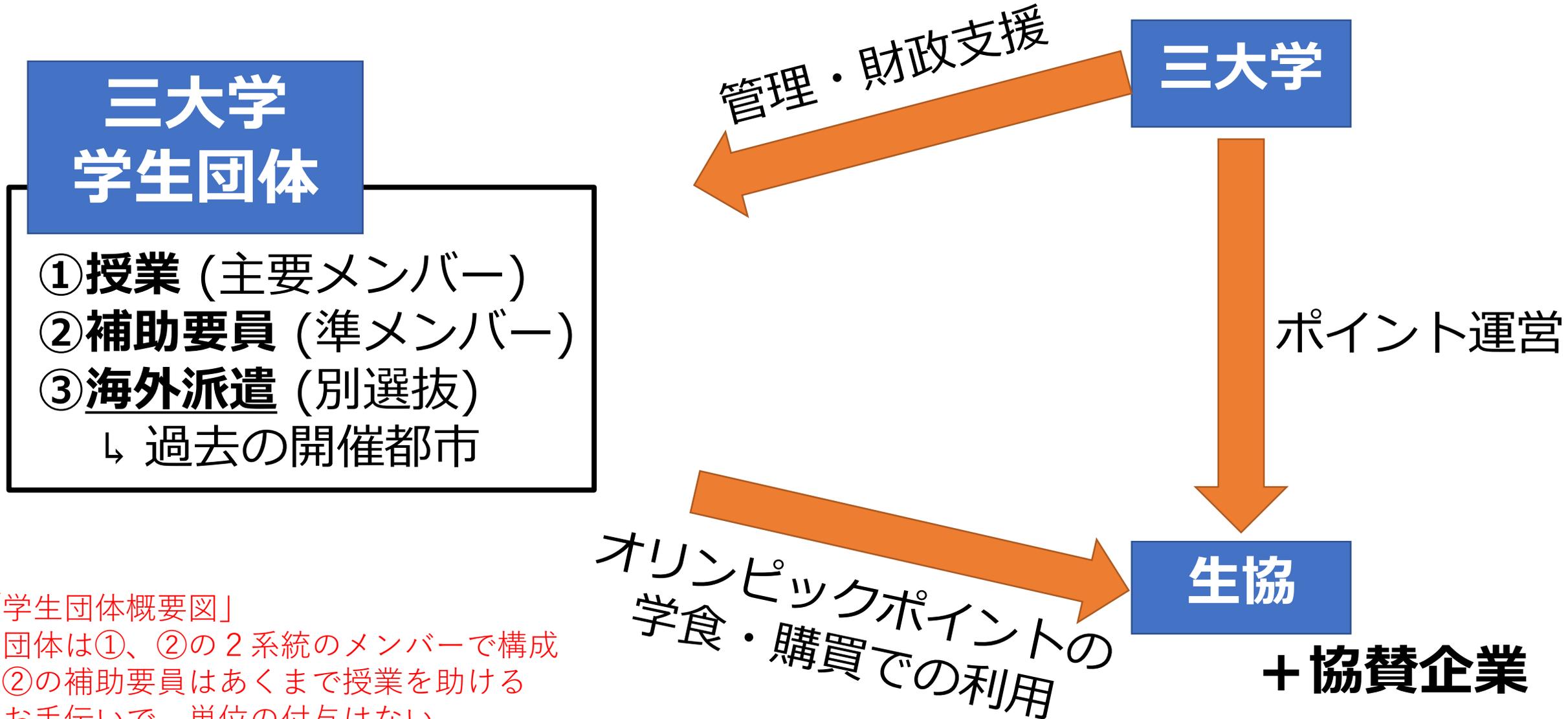
- 国や都などのイベントのボランティアへ**集団**で参加
- 団体や大学のネットワークを活かして様々な機会を設定  
ex. 東京マラソン関連イベント  
一般あるいは言語対応のボランティアを募集

• 学生団体の一つの柱  
(ボランティア参加で機運醸成?、あくまで学生不足を補うため)





# 学生団体の概要・相互関係



## 「学生団体概要図」

- ・ 団体は①、②の2系統のメンバーで構成
- ・ ②の補助要員はあくまで授業を助けるお手伝いで、単位の付与はない

# 参考とした団体 - AIMS

- **AIMS (ASEAN International Mobility for Students)**
  - ・ アセアン諸国を中心とした政府主導の国際学生団体
  - ・ 日本からは農工大・首都大学東京・茨城大学が参加
  - ・ 留学生の受け入れと交流、日本人学生の海外派遣が主な活動
  - ・ 留学生との交流グループには、農工・工のみで100人以上が参加
  - ・ 課外活動に近いが、一部の活動を除き単位が認定される

「団体のメンバー構成の参考例」

- ・ 一部のみ単位が付与される点は類似
- ・ 単位付与外のメンバーは興味で集まった人たちが主



# 授業 - シラバス・評価方法

## ● 授業

- 三大学の学生（学年不問）を対象とした通年授業
- 内容
  - ①スポーツボランティアへの参加・斡旋
  - ②観戦会の実施に関する計画と実行
  - ③SNSやウェブサイトでの情報発信・宣伝

「現実的かの説明」

授業の一環でボランティアをした際に単位を付与する例あり





# 授業 - シラバス・評価方法 (2)

## ● 評価方法

- 半期ごとに評価
- 評価基準

①出席 10%

②ボランティア・イベントへの参加 10%

③レポート作成・発表 80%

〔 事前準備 40% - 達成目標の設定  
結果 40% - 目標達成率、原因分析、解決方法の提案 〕

※ 達成目標例：開催イベントの目標参加人数、HPの閲覧数



# 差別化戦略 – オリンピックポイント

## ● 特徴

- ボランティアへの参加に応じて付与
  - ポイントは生協の購買や学食で利用可能
  - 交通系ICカード等と連携し、利便性を追求
  - ポイントの管理は大学側・学生団体担当の部署が行う
  - 資金は学生団体への大学の予算や協賛企業からの外部資金で賄う
- ➡ 国立大ではなかなか見られない独自かつ先進的な取り組みを通じて、学生団体に何度も参加したくなる魅力を持たせる

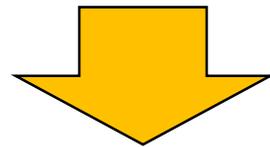


「学生の興味をひく一戦略」  
(差別化戦略本当に必要？新規性を出したい?)



# まとめ

- インターネットを通じた情報提供 ⇒ 多様な情報を確実に届ける
- 観戦会の実施 ⇒ 東京大会に足を運んでもらう (機運醸成)
- ボランティア参加 ⇒ ボランティア不足を解消する  
人生の糧になる貴重な体験をしてもらう
- 三大学の学生交流 ⇒ お互いに良い影響を与える



三大学学生団体 = これら全てに取り組める！

➡ オリンピックの盛り上げ・大会成功に少しでも貢献  
三大学の盛んな交流の先駆け

# ご清聴ありがとうございました



東京外国語大学

*Tokyo University of Foreign Studies*



三大学協働プロジェクト

Presented by Group D